

任

○明治十七年七月一日
任歩兵中尉 遠藤文之進
全 全 津村 秀之
全 全 山本 友清
全 全 大須賀利勝
任歩兵中尉 全 全 森 豊
○明治十七年七月九日
任騎兵大尉 編重兵大尉正七位勳五等 谷村 晴光
任騎兵少尉 編重兵少尉正八位 佐伯義次郎
任會計二等軍吏 會計三等軍吏正八位 河口棟之進
任三重縣警備部長 伊東 祐賢

時事新報

佛國ノ要求

支那佛國西兩國ノ東京高麗ハ如何落着スベキヤ世人皆謂ク引テ其報ヲ待テモ未ダ何タル確報モナシ實際ノ談判ハ果シテ何様ノ點ニマテ達シ居ルヤ更ニ知ルベカラザルナリ前日來ノ電報ニ依レバ西太后ハ斷然佛國ノ債金要求ヲ拒絕シタリト云ヒ支那海軍ニ厲ハレ居ル英國ノ士官等ハ鮮職ヲリト云ヒ佛國艦隊ハ北上シタリト云ヒ佛國ハ七月十三日ヨリ向フ八日間ノ猶豫ヲ與ヘテ支那ノ決答ヲ促シタリト云ヒ殺氣騰溢タル其傍ニ他ノ電報ニ依レバ清佛ノ高麗ハ無事ニ落着キタリト云ヒ清佛ノ談判ハ無事ニ落着スベキ様子ナリト云ト八日間ノ決答スベシトノ手詰メノ掛合ハ又更ニ八日間ノ日延ベシタリト云ヒ南京ノ總督會國基ハ全權大臣トシテ佛國公使バチノートルト會合商議スベシトノ命令ヲ受ケタリト云ヒ此高麗ハ既ニ落着キタルカ或ハ今正ニ落着キツアルカ或ハコレヨリ漸ク談判ニ取掛ラントスルカ都合ナルカ如ク見エ決シテ破裂開戦ナドノ模様ハナキモノ、如キ畢竟スルニ支那國內ニハ鐵道モナク郵便モナク電線モ少ナク新聞紙モ少ナク政治上ノ事務モ社會上ノ事務モ一切皆秘密ノ中ニ森ノ置クノ風習ナルガ故コ何事モ拘ハフズ急ニ確實ナル報知ヲ得ルニ甚ク難シ今固ノ高麗始末コトモ今暫ク時日ヲ猶豫セザレバ到底確實詳細ノ報知ヲ得ルコトハ六ヶ敷カラン

アルヤ又爲サントスルヤ蓋タ明白ナラズ不慮千萬ナリ蓋シ東京高麗ニ關シ清佛談判ニ思議ナルハ今日ニ始マルコアラズ去年ブリー公使ガ突然北京在勤ヲ免セラレトリウ公使日本ヨリ轉任シテ再々上海ニ幸シテ談判ヲ始メ是モ満足ナル結果ヲ見ズシテ中コロコ立消トナリ一方ニハ相替ラズ東京地方ノ戰爭ヲ續ク居ル折柄怒テ天津ニテ清佛和約ノ調ヒタル報知アリタリ此時ハ是レ本國ノ新來佛國全權公使ハ既ニ安南マテ到着シテ不日北京ニ來フントシ東洋艦隊長佛國海軍中將モ亦支那南海ヨリ北上ノ途ニ在リト云フノ折ナリシテ以テ何人ガ此大事ヲ委任セラレテ天津ニ到リ談判セシヤ知ルモノ更ニナカリシガ後ニ聞ケバ船將フルニエート云フ人ナリシヨシニ聞ケ者皆一驚ヲ喫シタリキ斯レ大第ナルガ故ニ今回ノ談判モ亦例ノ清佛談判ニシテ何處ニ何人ガ何様ノ事ヲ爲シ居ルヤ實ニ思議スベカラザルナリ

電報

○七月十一日龍動發 佛國馬耳他港ホテハ虎列利病の爲めに死亡するもの益多く昨日は五十三人の病死ありり
○七月九日北京發 清廷にては前雨廣總督張樹聲が其任に堪へずとの奏議に關して張樹聲專職ハ區分は之と吏部に下しるゝ吏部ホテは樹聲の職位を革め仍舊其任に留まらし先廣東防務を辦理せしめて力めて自願を圖らし先ん奏しる旨を上諭したり○會辦北洋事宜通政使吳大澂ハ才保荐の旨に遵ひ三人を薦めり其中有用才と思はるゝハ直隸總督李鴻章の英語通譯官羅豐祿一名として同人は據當事件の完竣するを俟り清帝に謁見する爲め北京ホ赴く筈なり
○七月十二日北京發 總理衙門にては佛國政府に向テ李鴻章と佛國艦將フルニエートの調印したる議定條約に換ふる議定條約を延引なく完結するの用意を盡へ且つ其議定條約に於て支那兵と東京より引拂ふの日限をも決定す可き旨を通知したり是れ支那人の説ホテ議定條約に於ては支那兵引拂ひの日限を定めり云へばあり又郎松の新事件は清佛の高官之を議し又之を定むる筈あり其他天津よ於て在北京の二高官と通同して行走する爲め欽差會辦二名を命しり
○七月十三日北京發 左宗棠ハ人才保障の旨を奉して都察院左副御史會紀澤、浙江布政使德馨、江甯布政使梁燾、甘肅布政使魏光燾、直隸津海關道盛宣懷、陝西布政使方大澂を薦光るゝ西太后ホ以軍機處に命し今後之を拔擢する爲め其名を記存せしめたり

雜報

○能久親王 今般相換國庫邊邊よ於て陸軍大學校生徒演習に付二品能久親王よは御沙汰に依り昨日午後十二時十五分新橋發レ汽車にて同所へ赴かれ侍從兵少佐岡田善長氏と其隨行を命せられたり
○北白川宮の御本館 赤坂門内に新築せし北白川宮殿下の御本館は既ホ落成し目下内部の裝飾も着手し居らるゝよしあるが便利の爲め今度各室毎に電話機を仕掛け且つ廊下所々美麗なる燈臺を懸付るとの事よて又別よ樂島御宿古の爲り廊内へ廣大なる馬場を設けられたりと云ふ
○皇族の邸宅 各皇族方の御邸宅は既來朝もなかりしが今度其邸數の代官は一萬圓
○川村海軍卿 の山城凡お乘
○松方大藏卿 を巡視去たる
○事務を取調を在去同日より大坂四日市する預定あり
○公使歸朝 本紙に記載せ朝の途よ就く
○新華族 佐に列せらるゝ
○大谷光堂君 故島枝宮の納れども何か用右は其節ニ宗の信儀ハ
○岩倉洗子遊 院殿の方ホ本年四月以分逝去したり
○女官を久しく たるよし又昨お供せられた
○參事院職官補 慮慮したり
○昇進 宮内省三等出仕に
○檢務局長 大書記官が同お依レバ檢務局長長官は名を
○歸京 義に此は御用濟みては赴き居たるは
○所知事縣令 千葉縣令
○滋賀縣令 命の三氏は四三
○滋賀縣令 命の三氏は四三
○滋賀縣令 命の三氏は四三
○滋賀縣令 命の三氏は四三